

# 第七次

# 天童市総合計画

笑顔 にぎわい しあわせ実感 健康都市  
～ともに明日をひらく てんどう～





# 第七次天童市総合計画

笑顔 にぎわい しあわせ実感 健康都市  
～ともに明日をひらく てんどう～

天 童 市



# 未来に向け ともに築く 「健康都市 てんどう」

少子高齢化の進行とこれに伴う本格的な人口減少社会の到来、グローバル化に伴う経済環境の変化、自然災害に留まらない防災への関心の高まり、教育環境の変化、高度情報社会の浸透など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。また、地方自治体においては、人口減少等に起因する地方創生への取組や持続可能な行財政の運営など、多様化・複雑化する行政ニーズへの対応が求められています。

このような社会経済情勢等の変化に的確に対応するとともに、第六次天童市総合計画の成果を生かしながら、市民の健康のみならず、産業の発展や安全な暮らしなど、幅広い分野が健全である「健康都市」のさらなる高みに向けた指針として、第七次となる新たな総合計画を策定しました。

この第七次天童市総合計画では、「笑顔 にぎわい しあわせ実感 健康都市 ～ともに明日をひらく てんどう～」を将来の都市像として、五つのまちづくりの目標とともに、重点的・横断的に取り組む未来創生プロジェクトを掲げています。生き生きとして住み続けられ、持続可能な未来を描くことができる活気と魅力あるまちを目指し、市民の皆さまをはじめ、地域や事業所などの各種団体、天童に縁のある方々も含め、ともにまちづくりを進めながら、施策の効果的な展開と効率的な行財政運営を図り、計画を着実に推進してまいりますので、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、第七次天童市総合計画の策定にあたり、多大な御尽力をいただきました振興審議会や市議会、まちづくり市民会議の皆さまをはじめ、まちづくり市民アンケートや各地区で開催したまちづくり懇談会など、様々な機会を通して、貴重な御意見をいただきました市民の皆さまに、心から厚く御礼申し上げます。

平成30年3月

天童市長  
山 本 信 治



# 目次

## 序論

まちづくりの経過	2
----------	---

## 第1編

### 基本構想

第1章 計画策定の趣旨	8
第2章 総合計画の位置付けと役割	8
第3章 総合計画の構成と期間	8
第4章 計画策定の背景と課題	9
第5章 まちづくりの目標	
第1節 市の将来像	12
第2節 まちづくりの目標	13
第3節 将来目標人口	13
第6章 施策の大綱	
第1節 健康と健やかな成長を支え合うまちづくり	14
第2節 産業の活力と魅力あふれるまちづくり	16
第3節 住みよい環境と安心を守るまちづくり	18
第4節 夢をはぐくむ学びのあるまちづくり	20
第5節 健全な行財政をともに築くまちづくり	22

## 第2編

### 基本計画

● 施策の体系	24
● 未来創生プロジェクト	27

#### 第1章 健康と健やかな成長を支え合うまちづくり

##### 第1節 あたたく支え合う福祉の充実

第1項 地域福祉	36
第2項 高齢者福祉	39
第3項 障がい者福祉	42

##### 第2節 安心して子育てできる環境の充実

第1項 子ども・子育て支援	44
---------------	----

##### 第3節 健やかな心と体を支える保健と医療の充実

第1項 健康づくり	47
第2項 母子保健	50
第3項 地域医療	52

##### 第4節 将来にわたり安心できる社会保障の確保

第1項 公的医療保険・国民年金	54
第2項 低所得者福祉	56

#### 第2章 産業の活力と魅力あふれるまちづくり

##### 第1節 競争力のある農林業の振興

第1項 農林業	60
---------	----

##### 第2節 持続・成長する工業の振興

第1項 工業	64
第2項 企業誘致・産業創出	66

##### 第3節 観光の振興とにぎわいのある商業の促進

第1項 観光	68
第2項 商業	72

##### 第4節 雇用の創出と労働環境の充実

第1項 雇用・労働環境	74
-------------	----

<b>第3章 住みよい環境と安心を守るまちづくり</b>	
<b>第1節 環境保全のために行動する意識の啓発</b>	
第1項 環境保全……………	78
第2項 環境衛生……………	81
<b>第2節 安心で快適なまちの形成</b>	
第1項 都市基盤……………	83
第2項 道路……………	87
第3項 河川……………	90
第4項 公共交通……………	92
<b>第3節 充実した生活環境の維持</b>	
第1項 上・下水道……………	94
第2項 公園・緑地……………	97
<b>第4節 安全で安心な助け合う地域の構築</b>	
第1項 防災……………	99
第2項 消防……………	102
第3項 防犯・消費生活……………	104
第4項 交通安全……………	106

<b>第4章 夢をはぐくむ学びのあるまちづくり</b>	
<b>第1節 未来をひらく教育の推進</b>	
第1項 学校教育……………	110
第2項 家庭教育……………	114
<b>第2節 豊かな人生を創造する生涯学習・社会教育の充実</b>	
第1項 社会教育……………	116
第2項 生涯学習……………	119
<b>第3節 魅力ある芸術・文化の継承</b>	
第1項 芸術・文化……………	121
第2項 文化財……………	123
<b>第4節 活力あるスポーツの振興</b>	
第1項 スポーツ……………	125

<b>第5章 健全な行財政をともに築くまちづくり</b>	
<b>第1節 持続可能な行財政運営</b>	
第1項 行財政運営……………	130

第2項 広域行政……………	134
<b>第2節 みんなが参加して構築するまち</b>	
第1項 広報・広聴……………	136
第2項 市民参画……………	138
第3項 男女共同参画……………	140
第4項 交流・移住定住……………	142

### 資料編

主要指標の推移と目標……………	146
未来創生プロジェクト 関連表 ……	148
計画の策定経過……………	149
計画策定体制……………	152





# 序 論



# まちづくりの経過

本市のまちづくり計画は、昭和33年10月の市制施行後に策定した「新市建設基本計画」に始まり、以来、長期的な観点に立ち、社会経済情勢の変化などをとらえながら、改定を重ねてきました。

これらは、先人たちのたゆまぬ努力の下、市民と行政がともにはぐくんできたまちづくりの記録でもあり、人口が増加する、にぎわいと活力あるまちとして発展を遂げてきました。

## 新市建設基本計画（昭和34年度策定）

この計画は、昭和29年10月1日の1町6か村の合併に際し、関係町村の協議によって策定された建設計画に、新しい天童市を一体のものとして考える立場から改めて調査・検討を加え、総合的な新市建設10か年計画として策定されたものです。

基本方針は、市民所得の増大と住民福祉の増進であり、重点施策は、倉津川の全面改修などの河川災害の防止と農地の保全、農業生産力の増強による市民所得の向上、中央土地区画整理事業などによる新たな市街地の建設、天童小学校の移転・改築を始めとする教育施設の整備などであり、行財政運営の合理化と投資的経費の増大を図りながら、新市の一体性を確保し、豊かで明るい都市の建設に力が置かれました。

## 天童市建設基本計画（昭和39年度策定）

この計画は、昭和37年10月20日に豊栄村との合併が実現して、人口規模では県下第5位の都市に躍進し、昭和39年3月には、市全域が都市計画区域に決定されたことなどから、新しい行政区域を基盤とした長期にわたる建設計画として、昭和45年度を目標年次として策定されたものです。

主要な整備目標は、1,130ヘクタールに及ぶ大ほ場整備事業、立谷川工業団地や天童土地区画整理事業などの面的な土地基盤整備であり、主に産業基盤を中心とした秩序ある都市の建設に力が注がれました。

この計画が策定された時代は、山形バイパスの路線決定を始め、山形県警察学校や山形県青年の家などの公共施設の設置、誘致企業の立地などが相次ぎ、新生天童市の目覚ましい発展のスタートとなりました。

## 天童市総合計画（昭和47年度策定）

この計画は、昭和60年度を目標年次とした基本構想と昭和55年度を目標年次とした基本計画で構成されており、昭和60年度の人口を55,000人と想定して策定されました。策定に当たっては、市内の小・中学生から本市の将来をテーマにした絵や作文、標語の募集、市民2,000人を対象にしたアンケート調査など、本市の理想像を広く市民に呼び掛けて策定しました。それらを踏まえ、自然環境との調和を最優先に、人間尊重を基本理念とした「豊かな人間環境を創造し、市民の創意と活力で未来

をひらく公園都市」の理想像を掲げました。

この時期は、日本列島改造ブームによる急激なインフレーションと昭和48年10月の石油価格の大幅な引き上げによる経済成長の急激な低下（第一次石油危機）により行財政運営の長期的な見通しが困難な状況でしたが、理想像実現のために、まちづくりに対する市民の積極的な参加と総力の結集を求めました。

## 第二次天童市総合計画（昭和56年度策定）

この計画は、昭和47年度に策定された天童市総合計画の基本構想の理想像を継承し、平成2年度を目標年次として策定されたものです。「美しい自然、整備された都市施設、市民の健康と安全を守るまち」、「充実した生涯教育、香り高い文化を創造していくまち」、「すべての産業が調和を保ちながら繁栄していくまち」の三つの柱を掲げて計画を推進しました。

昭和52年5月に本市の人口が5万人を突破、急激に都市化が進みました。財政事情も厳しい状況でしたが、市民憲章を基調としたこの計画を中心として、公正かつ効率的な行財政運営に努めるとともに、市民と行政の役割を明確にしながら、それぞれが一体となったまちづくりを推進しました。

## 第三次天童市総合計画（昭和61年度策定）

この計画は、第二次天童市総合計画を発展的に継承しながら、平成12年度を目標年次とした基本構想と平成7年度を目標年次とした基本計画、昭和62年度を初年度とする3か年実施計画から構成されています。専門者懇談会などの意見を集約し、将来の都市像を「さまざまな交流で、豊かな文化を創造する活力のあるまち」としています。

この時期は、5年後に控えた第47回国民体育大会と第28回全国身体障害者スポーツ大会の開催という、本市始まって以来の大規模イベントを控え、その成功に向け、全市を挙げて取り組む必要がありました。

また、社会経済情勢では、昭和61年12月から続いた長期の景気拡大により各種の資産価格が異常に高騰したのち、平成2年10月に株価の暴落（バブル崩壊）が発生しました。内外ともに厳しい時期でしたが、そうした中、市民・企業・行政が総力を結集して、交流・創造・活力のあるまちづくりに取り組みました。

## 第四次天童市総合計画（平成6年度策定）

この計画は、第三次天童市総合計画を受け、平成22年度を目標年次とした基本構想と平成17年度を目標年次とした基本計画、平成8年度を初年度とする3か年実施計画から構成され、新世紀に向けて本市が進むべき方向を定めたものです。

「生きがいと創意にあふれる快適未来都市」を将来の都市像として、「明日の音律がひびくまち 天童」をキャッチフレーズに、市民憲章の5つの目標をまちづくりの目標としています。また、都市機能軸による機能的で計画的な土地利用基本方針を定めるとともに、市民が主体的にまちづくりを担う市民行動計画を策定し、市民と行政が連携してまちづくりを進めました。

この時期の社会経済情勢は、バブル崩壊後の長い不況が続き厳しい状況でしたが、適正な財政運営を基本に、土地区画整理事業などの土地基盤整備を継続して推進するとともに、山形新幹線新庄延伸関連事業などに取り組みました。

第47回国民体育大会終了後も、第10回全国健康福祉祭山形大会や第12回全国スポーツ・レクリエーション祭を始めとする全国規模のイベントを開催するなど、活気ある豊かな市民社会の形成を目指しました。

## 第五次天童市総合計画（平成12年度策定）

この計画は、第四次天童市総合計画を受け、平成27年度を目標年次とした基本構想と平成22年度を目標年次とした基本計画、平成13年度を初年度とする3か年実施計画から構成されています。

人生のライフステージに沿った体系付けなどを行ったこの計画は、将来の都市像を「人輝き 誇りと生きがいのもてるまち」と決めました。また、土地利用については、都市機能軸に加え、地域特性に応じた5つのゾーニングを行い、合理的な利活用を目指しました。

21世紀を迎え、国際化の進展や平成12年4月の地方分権一括法の施行など、社会経済情勢が大きく変化した時代でした。

市民との協働の下、第13回全国生涯学習フェスティバルや第18回国民文化祭やまがた2003などの全国規模のイベントを開催したほか、継続した土地区画整理事業による既成市街地と新市街地の開発、市民墓地の整備などを行いました。

基本計画については、中間年次である平成17年度に、それまでの成果と課題を踏まえて社会経済情勢や市民ニーズの変化に対応するため、後期計画を策定しました。

この時期は、学校給食センターや天童市民病院の移転・改築、都市計画道路愛宕沼天童原線の開通などが実現し、市政の発展が図られました。また、市制施行50周年を迎えた平成20年度には、第34回将棋の日・国際将棋フェスティバル2008in天童を始めとする様々な記念事業を開催し、生涯学習や芸術文化などの充実に取り組みました。

## 第六次天童市総合計画（平成21年度策定）

この計画は、平成28年度を目標年次とする基本構想と基本計画、平成22年度を初年度とする3か年実施計画から構成されています。

少子高齢化の進行、人口減少社会の到来、経済のグローバル化、安全・安心や環境意識の高まりなど、社会経済情勢の変化に対応するため、将来の都市像を「笑顔 にぎわい しあわせ実感 健康都市」とし、五つのまちづくりの目標を掲げています。また、基本計画の中でも重点的・横断的に推進する事業を未来創造重点プロジェクトとして設定し、五つのプロジェクトを掲げました。

本市においても、人口減少の傾向が見え始めた時期でしたが、中学3年生までの医療費無料化や第3子以降の保育料無料化などの子どもを安心して生み、育てることができる環境づくりに重点的に取り組んだほか、小中学校施設の耐震化や第一中学校の移転改築などの教育環境の整備、芳賀土地区画整理事業の推進、荒谷西工業団地の整備による地域経済の活性化など、様々な分野の施策を展開しました。

また、平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、各地に未曾有の被害をもたらしました。本市では幸いにも大きな被害はありませんでしたが、市民生活に与えた影響は大きく、防災体制や災害対応などの充実が求められた時期でもありました。

中間年次となる平成24年度には、それまでの施策の検証を行い、これを踏まえながら、未来創造重点プロジェクトの後期計画を策定しました。

後期計画の期間においても、継続して子育て支援に取り組むとともに、子育て未来館げんキッズの整備などを進めたほか、市庁舎などの市有施設の耐震化、市道清池南小畑線の道路築造、JR天童南駅の設置、天童インター産業団地の整備などを行いました。また、天童ラ・フランスマラソン大会を開始し、スポーツによる魅力あるまちづくりにも取り組みました。行財政改革としては、天童市行政経営計画を策定したほか、人事評価制度の運用開始や市庁舎のフロアレイアウト改修などを行うとともに、ふるさと納税に積極的に取り組み、本市の魅力を全国にPRするなど、活力あるまちづくりに向けて施策を展開しました。

## 総合計画の計画期間

- ：基本計画の初年度
- ：基本計画の目標年度
- ◇：基本構想の目標年度

名称	年度	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025
		昭和 35	40	45	50	55	60	平成 2	7	12	17	22	27	32	37
新市建設基本計画		33	42												
天童市建設基本計画			40	45											
天童市総合計画					48	55	60								
第二次天童市総合計画						56	2								
第三次天童市総合計画							62	7	12						
第三次天童市総合計画 後期プロジェクト								5	7	12					
第四次天童市総合計画									8	17	22				
第五次天童市総合計画										13	22	27			
第五次天童市総合計画 後期基本計画											18	22	27		
第六次天童市総合計画												22	28		
第六次天童市総合計画 未来創造重点プロジェクト (後期計画)													25	28	
第七次天童市総合計画														29	36

※基本構想及び基本計画は、第三次天童市総合計画を継承

※基本構想は、第五次天童市総合計画を継承

※基本構想及び基本計画は、第六次天童市総合計画を継承

